

農業技術情報

平成23年4月28日
ゆとりみらい21推進協議会指導部会

十勝農業改良普及センター十勝東部支所
015-572-3128
JA 幕別町 54-2302
JA 札内 56-2131
日甜東部センター 54-2756
幕別町農林課 54-6605

畑 作

秋まき小麦

(1) 生育の状況

小麦の生育は4月25日現在で、茎数672~2,438本/m²(平均1,407本/m²)・1株茎数4.3~18.3本(平均9.8本)と幅があり、は種の早いほ場ほど生育が進んでいます。

また、本年は平年より早く幼穂形成期(主稈の幼穂長が2mmになった日、平年5月7日)を迎えることが予想されますが、は種日の早晩や越冬後の生育状態によって前後します。

表1 は種期区分ごとの生育状況(4月25日現在・幕別町内21ほ場生育調査より)

は種期区分	草丈(cm)	茎数(本/m ²)	1株茎数(本)
9/21~25	14.0	1,510	10.8
9/26~30	12.7	1,262	9.1
10/1以降	11.7	1,141	6.0
平均	13.4	1,407	9.8
前回調査(4/8)	13.3	935	-

(2) 幼穂形成期の窒素追肥

起生期に引き続いて、幼穂形成期ごろに追肥をおこないます。追肥量は、幼穂形成期の茎数(表中の~)から検討してください。欠株・裸地がみられるほ場では、追肥量を調節する必要があります。また、地力の高いほ場や野菜跡で追肥量の判断がつかない場合、農協または普及センターにお問い合わせください。

表2 幼穂形成期の窒素追肥量

幼穂形成期の茎数(本/m ²)	窒素追肥量(kg/10a)		留意点
	起生期	幼穂形成期	
2,000以上	0~2	追肥しない	茎数1,000~2,000本/m ² の場合、起生期+幼穂形成期の追肥合計量は <u>6kg/10a</u> を上限とする
1,500~2,000		2~4	
1,000~1,500	2		
1,000未満	農協・普及センターにご相談ください		

例) 茎数1,200本/m²で起生期追肥が2kg/10aの場合は、4kg/10aを上限に追肥する

幼穂形成期以降の窒素追肥については、今後の技術情報を参考にしてください。

野 菜

1 ながいも

本年、一時的な過湿でキュアリング中に青かび病が一部で発生しました。

青かび病が発生した種いもは、出来る限り取り除きます。また、催芽中においても観察を行い腐敗に注意して下さい。

(1) 催芽の管理

催芽開始から8～10日間の温度は、26℃になるように加温します。

目標温度26℃に達すると、種いもから水分が発生しますので加水の必要はありません。

不定芽が見え始めたら、4日間で2℃ずつ低下させるよう温度管理を行います。芽が大豆粒大になったら完了です。

催芽中は必ず1日1回換気を実施し、酸素の供給を行います。換気（酸素）が不足しますと不萌芽となりますので注意して下さい。

(2) 順 化

催芽完了から植え付け時の地温と同じ温度まで下げる作業です。

順化を実施しないと萌芽のバラツキや多本下がりの発生が多くなります。

芽の伸長を抑えるため、12℃程度まで下げて青シートで芽の乾燥を防いで下さい。

2 レタス・きゃべつ

レタスの定植は例年より早く4月10日前後からべた掛け被覆が進んでいます。強風による葉先枯れが若干見られますが生育は順調です。

(1) 定 植

定植時の植付けの深さは、セル培土が見えない程度で、子葉が埋まらない深さです。

今後、降雨により定植が遅れる場合は、2～3日置きに液肥を散布し、根の活性化に努めて下さい。定植が遅れる場合の液肥は、e - トミ - 105 (1 - 10 - 5) 1 , 000倍。

また、高温にならないよう換気を十分行って徒長に注意して下さい。

定植が遅れていない場合の液肥は、e - トミ - 688 (6 - 8 - 8) 1 , 000倍。

(2) レタス定植後の病害

今後の降雨により、べと病・すそ枯病の発生が懸念されますので注意して下さい。

ダコニール1,000 1,000倍 収穫14日前 3回